

デンマークにおける「高齢者住宅」の住棟計画

Building Types of "Housing for the Elderly" in Denmark

正会員 ○小川正光 Masamitsu Ogawa¹
同 小川裕子 Hiroko Ogawa²
同 齋藤光代 Mitsuyo Saitou³

1. はじめに

わが国でも、高齢者の住生活の質を向上させるため、共用スペースを確保した住棟形式の供給も進められている。本研究では、1987年以降高齢者が居住する場を基本的に「住宅」としているデンマークの「高齢者住宅」を対象に、住棟計画の特徴を検討し、わが国の高齢者向け住宅計画に示唆を与えることを目的とする。

2. 研究の方法

大コペンハーゲン市域を対象に、「高齢者住宅法」の実施から2000年末までに建築された事例を、建築雑誌と単行書から可能な限り抽出し、合計58の事例を収集した。これらの住棟・配置計画の図面をデータとして類型化し、類型相互を比較・検討する分析を通じ、計画の動向と原則を考察した。

3. 住棟型の類型化と特徴の検討

3.1. 住棟型の類型化

各住戸に対するアプローチの違いから、廊下で結合するタイプ(1~9)と、階段で結合するタイプ(10, 11)に2区分し、さらに、以上の型を複数含むタイプ(12~14)を設定し、合計で、図1に示す14の類型とした。

1~4は、片廊下により住戸を結合させたものである。1の「一列型」は、片廊下住棟1棟だけによる団地である。事例数では、最も高い割合を占めた。2~4は、1の片廊下住棟を複数棟配置した団地を示す。2の「並列型」は1の住棟を同一方向に反復した団地で、各住戸に同様な居住性を与える。3の「対面型」は、複数の片廊下型の住棟を向かい合わせに配置した型で、廊下側の中庭をコモンスペースとして形成する。4の「囲み型」は、住棟数を増やし、2の「並列型」に加えて直角方向にも配置して、囲みを形成した型である。5の「中廊下型」は、中廊下により住戸を結

合する型で、「片廊下型」に比べ、廊下の比率が低くなる。

6~9は、住戸の結合は片廊下によるが、廊下を曲げる工夫をしている。6の「湾曲型」は、廊下を湾曲させ、視線の集中と変化を意図している。7の「L字型」は、片廊下を直角に曲げたもので、各住戸の開口部は異なった方向に向くが、廊下側では一体感を形成する。8の「コの字型」では、さらに廊下を曲げて中庭を形成し、一体感を高めている。9の「口の字型」は、廊下で中庭を一周できるように完全に囲んだものである。

階段で結合する住棟型には、2種類を含む。10の「ホール型」は、比較的広いホールを中央に設け、周りを囲むように住戸を配置したものである。11の「踊場型」は、ホールが縮小し、階段の踊場程度の規模になった型である。

「複合型」には、3類型がみられた。12は、1と9を、13は、4と8を、14は、7と8を混在させたものである。いずれも、住棟で囲まれた屋外スペースを形成する構成になっている。

3.2. 住棟型別、建築時期

住棟型別に、各事例の建築時期をプロットし、分布により検討した(図2)。

「片廊下型」の住棟は事例数も多く、一般的だが、中でも1の「一列型」の数が多く、90年代に一貫して建築されてきた。「高齢者住宅」の基本的な住棟型と考えられる。2の「並列型」は、90年代前半に計画されてきたが、後半以降はみられなくなった。3から6までは、ほとんどが80年代後半から90年代前半までに建築されている。複数の住棟を含む3、4の団地は95年以降には建築されていない。建築されなくなったのは、郊外に立地する大規模な団地は、高齢者の生活圏形成上望ましくない、と判断された時期に一致する。5の

*1 愛知教育大学教育学部・教授・工博
*2 静岡大学教育学部・助教授・博(工)
*3 PLAN・所長・芸修

Prof., Faculty of Education, Aichi Univ. of Education, Dr.Eng.
Assoc. Prof., Faculty of Education, Shizuoka Univ., Dr.Eng.
Leader, Arkitekttegnestue "PLAN", M.Design

結合型	住棟型	モデル図	結合型	住棟型	モデル図
廊下型	1. 片廊下・一列型(10)		階段型	10. ホール型 (6)	
	2. 片廊下・並列型(6)			11. 踊場型 (4)	
	3. 片廊下・対面型(1)		混合型	12. 1+9 (1)	
	4. 片廊下・囲み型(5)			13. 4+8 (1)	
	5. 中廊下型 (4)			14. 7+8 (1)	
	6. 湾曲型 (3)		*) トーンをかけた部分は住戸を、白い部分は廊下・階段を示す。		
	7. L字型 (7)		図1 住棟型の類型化		
	8. コの字型 (2)				
	9. 口の字型 (7)				

住棟型	建築時期 (年)				
	1985	1990	1995	2000	
廊下型	1. 片廊下・一列型(10)		●	●●●●●	●●●●●
	2. 片廊下・並列型(6)		●●	●●●●	●●●●
	3. 片廊下・対面型(1)			●	
	4. 片廊下・囲み型(5)	●●	●●	●	
	5. 中廊下型 (4)		●●	●	●
	6. 湾曲型 (3)	●	●●	●	
	7. L字型 (7)		●●	●●	●●●
	8. コの字型 (2)		●	●	
	9. 口の字型 (7)	●	●●	●●●●	●●●●
階段型	10. ホール型 (6)		●●●●	●●	
	11. 踊場型 (4)			●●●	
混合型	12. 1+9 (1)		●		
	13. 4+8 (1)	●			
	14. 7+8 (1)		●		

図2 住棟型別, 建築時期

「中廊下型」も、しだいに計画されなくなっている。6の「湾曲型」が計画されたのは90年以前で、古い型である。

7～9の住棟型も、90年代を通じて計画されている。団地の市街地立地、小規模化により、完結的で住戸相互の交流を形成しやすい構成が求められたためと考えられる。

10と11の「階段型」は、90年代の前半にみられる。これは、市街地の一般住宅を「高齢者住宅」へ改善した時期と一致する。

12～14の「混合型」が計画されたのは、80年代から90年初期にかけてである。これは3、4の住棟型が計画された時期、7～9が供給され始めた時期に一致する。大規模な団地内に、「高齢者住宅」も併設して計画したのである。

3.3. 住棟型別, 併設住宅・施設の種類

「高齢者住宅」と、団地内に併設する他の住宅・施設との関係を整理すると、表1ようになる。

片廊下により住戸を結合した1～3の住棟型では、様々な組み合わせのタイプがみられた。この点からも、片廊下の住棟は「高齢者住宅」の様々なタイプに対応する基本的な型といえる。複数の片廊下住棟で囲みを形成する4の型になると、アクティビティセンターなど通所型の「介護施設」を併設する事例がみられた。郊外に立地する団地であるため、「介護施設」も設けて完結した生活圏を形成したのである。ここでは、「一般住宅」や「団地集会所」の併設もみられる。6は、プラ

イエムなどの「高齢者施設」と「介護施設」を含むことから、4に比べると介護が必要になった段階の居住者が多く居住すると考えられる。以上の住棟型では、各戸に隣接して生活の一部を共同化した「住棟内コモンスペース」を併設する事例は、1、2を除くとみられず、介護型になる比率は低い住棟型である。

5では、「介護施設」と「住棟内コモンスペース」を併設した事例が多く、プライイエムを改善して「住棟内コモン」を設け、介護型住宅に転化させたものと考えられる。住棟を曲げ、囲みを形成する7～9の住棟型では、「介護施設」を併設し、住棟内に「コモン」を配置した比率が約半数を占め高い。90年代以降供給されることになった介護型住宅に対応する住棟型と考えられる。

「階段型」である10、11のほとんどは、「介護施設」など日常生活を援助する施設を併設せず、住宅であることを示している。

規模が大きい「混合型」の3団地では、一部に8や9の住棟型を含むため、「介護施設」を併設し、13「4+8」では、介護型になっている。

4. 住戸集団単位を形成する戸数

4.1. 住棟型別, 住戸集団単位を形成する戸数

廊下・階段に対して配置された住戸は、集団を形成するよう分節化されるのが一般的である。このような住戸集団は、日常的に集団の中で生活することを通して、自らを位置付け、認識しやすくする上で効果的と考えられる。団地内の「高齢者住宅」を構成するすべての住戸集団について、各

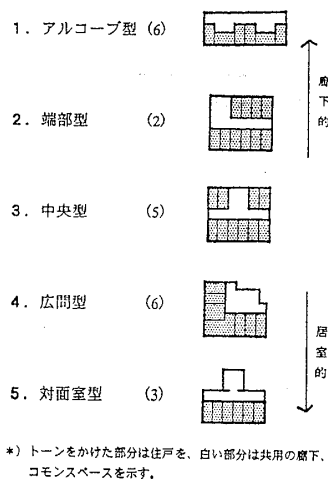


図3 住棟内コモンの類型化

表4 住棟内コモン型別、住棟型

コモンスペースの位置	住棟の型						
	廊下型				階段型	混合型	
	1 (4)	2 (2)	5 (4)	7 (6)	9 (4)	10 (1)	13 (1)
1. アルコーブ型 (6)	1		2	2			1
2. 端部型 (2)			2				
3. 中央型 (5)	1		2		2		
4. 広間型 (6)		1		4			1
5. 対面室型 (3)	3						

- 凡例
- 1. 片廊下・一列型
 - 2. 片廊下・並列型
 - 5. 中廊下型
 - 7. L字型
 - 9. 口の字型
 - 10. ホール型
 - 11. 4+8

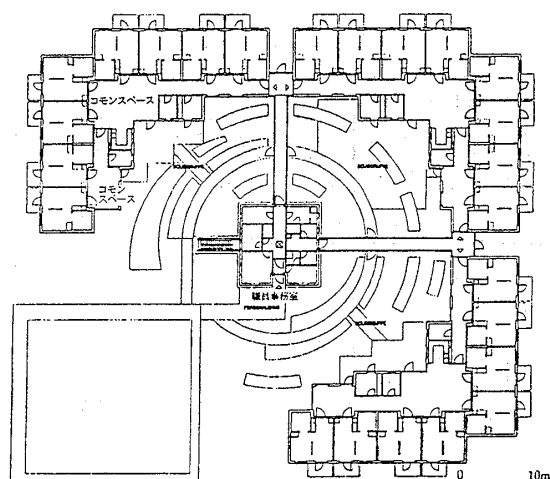


図5 L字型住棟と広間型コモンの事例

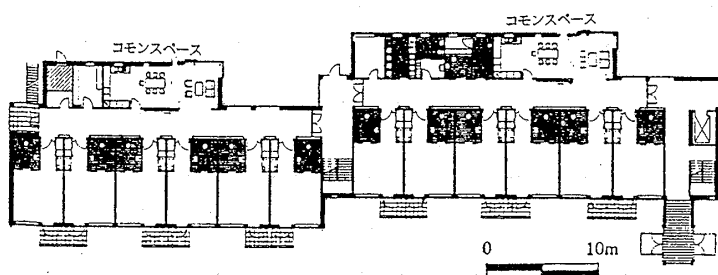


図4 片廊下・一列型住棟と対面室型コモンの事例

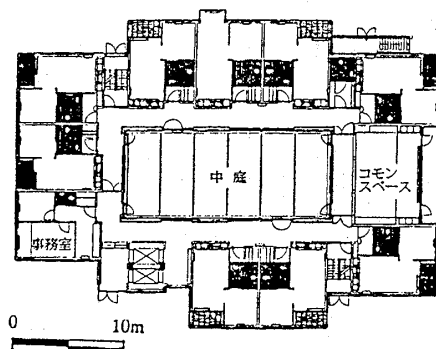


図6 口の字型住棟と中央型コモンの事例

単位として、2戸（図5）や3戸（図6）の集団を計画する必要があることを示している。

5. 「住棟内コモン」の計画

「住棟内コモン」の構成について、配置と結合性の視点から図3に示す5タイプに類型化した。

1の「アルコーブ型」は、廊下の一部を拡張して椅子・テーブルを配置し、コーナーを確保したものである。2と3は、廊下の一部をさらに拡張し、居室規模の共用スペースを確保したタイプである。2は入り口など住棟の端に配置したもの、3は住棟の中央部に配置したものである（図6）。4は3に似ているが、住棟が「L字型」であるため、各戸の入口が、直接コモンに面する（図5）。5は、コモンスペースを独立室として配置したもので、落ち着いて共用の場を形成できる。図4のように、廊下を挟んで配置するのが一般的である。

「住棟内コモン」の型と住棟型との関係は、表4のようにまとめられた。

1の「アルコーブ型」は、7の「L字型」や9の「口の字型」などの住棟型に広く分布していた。

廊下に変化を与えたり、交流の機会を増すことを意図した計画である。2の「端部型」や3の「中央型」は、5の「中廊下型」、9の「口の字型」住棟で計画されている。「端部型」と「中央型」のコモンは、住戸1戸分をコモンに転用して確保したものと考えられるため、「中廊下型」や「口の字型」の住棟で形成されることが多くなるのである。4の「広間型」は、7の「L字型」住棟の場合に多く形成されている。「広間型」のコモンの型と「L字型」の住棟型とは密接に結びついていると考えられる。5の「対面室型」が形成されるのは、1の「片廊下・一列型」の場合になっている（図4）。

6. まとめ

住棟形式は、片廊下型が基本的であるが、介護型住宅に対応し、小規模で囲みを形成する住棟形式が計画されている。住戸集団を形成する戸数は、数戸という頻度が高いが、自立的な住宅や重度の介護を要する場合には小規模化する傾向がある。